

石川島記念病院 理学療法士 稲村 莉沙

功 績 トイレ内での転倒による骨折事例を二度と起こさない目的で、転倒転落部会に於いて「トイレ内転倒・転落スコア・シート」を作成し、スタッフ側の見守り基準を明確にしたことにより、より転倒リスクの高い患者さんに対して早急に対応できる環境を作ることが出来た。そのシートの作成の中心的な役割を果たしたことに對する功績。

推 薦 者 田村 良子(リハビリテーション科 科長)

推 薦 理 由 回復期病棟に入院されている患者さんが、安全に日常生活動作を獲得していくためには、リハビリの時間だけでなく病棟での生活が重要となる。特に患者さんにとって獲得していかなくてはならないトイレ動作をいかにして安全に自立できるようにしていくかを考え、多職種と連携をとりながら、簡単に使用できている評価シートを考えて実施できるようにしたことで、トイレ内転倒0件を実現したことに対して、理事長賞に推薦させていただきます。

内 容

当院では、医療安全管理委員会の下部組織として、転倒転落防止部会がある。

部会は院内の転倒・転落事故を未然に防ぐため、より安全な医療環境の提供と発生予防対策は、もとより発生時の重症化の回避と、事故発生予測に適応した的確な対策を講じられるよう医療安全管理の資質の向上を図る活動を行うことを目的としている。

部会立ち上がりのきっかけは、3月末、早朝の繁忙時間帯にトイレ内で転倒骨折する重大事例が発生したことによる。当時、トイレ見守りは、「トイレ完了コールを確実に押せる患者さんは自立、それ以外はADLに応じて、ドア前待機、ドア内介助」という主観的な簡易基準で行なわれていたが、「トイレコール確実・座位保持安定 トイレ内自立」の高齢患者が、ナースコールを押そうとしてバランスを崩して転倒したことから、真にトイレ内で見守りが必要な患者さんの基準を明確にする取り組みが始まった。

稲村は、回復期リハビリテーション病棟での豊富な経験とリーダーシップを買われて、セラピストの代表として部会に参加。普段の病棟生活のADL評価や認知度評価とは別に、トイレという独自の空間における評価シートを作成し、トイレ内での転倒を予防することを提言。看護部・薬剤科とも話し合いながら作業をリードし、既往歴、身体的障害、精神的障害、薬剤の影響、排泄・トイレ動作、ナースコール可否、車椅子操作の客観的な7中項目・33細目・計102点に分類した詳細なスコアシートを作りあげた。評価シートは看護師とリハビリ科のスタッフが、入院時から定期的に評価し、危険度1・2a・2b・3の4段階に振り分け、4色の転倒予防ピクトグラムとすることで、見える化を容易にした。

更に、シートに基づいて全入院患者さんをスコアリング試算し、評価と実態の整合性がとれるように細目やウエイトを何度も手直しして、介助現場の職員が「このスコアの患者さんは、トイレ前から離れてはいけない」

と腹落ちできるように修正を重ね、常に中心的な役割を果たして完成に至った。

トイレでの見守り基準を明確にして、全員がその基準で動くことができるようになった結果、以降、院内のトイレ内転倒発生は0件が続いている。

回復期病棟に入院している患者さんにとって、生活の中でトイレを利用できるようになることは、大切な到達目標の一つである。より明確な介助基準を設け、全員が基準に従うことで、患者さんの安全確保と早期機能回復の両立に資することができる。